園内研修に関するQ&A

ポイントを押さえて研修をより効果的に

**研修の必要性を感じながらも、
「何から始めればよいのかわからない」
「十分な時間がとれない」といった理由で
園内研修の実施に課題を抱えている園も少なくないようです。
そのような園に多く見られる悩みや疑問に、
関東学院大学の大豆生田啓友教授が答えます。**

関東学院大学人間環境学部准教授
大豆生田啓友
おおまめうだ・ひろとも
専門は、幼児教育学・保育学・子育て支援。
著書に、『支え合い、育ち合いの子育て支援』（関東学院大学出版会）、
『よくわかる子育て支援・家族援助論』（ミネルヴァ書房）など。

Q1 園内研修と言ってもこれまで行ったことがなく、何から始めたらいいのか、よくわかりません。

A1 保育中の印象的な場面を話し合ったり、記録したりすることから始めましょう。

保育の中で困っていること、悩んでいること、気になる子どもの話などをもち寄って話し合うといいでしょう。保育の印象的な場面を記録して（エピソード記述）、共有することから始めてもいいと思います。みんなで印象的な場面の写真をもち寄ってもいいですね。それぞれがエピソードを発表し意見を述べ合うことで、情報や保育観の共有を図ります。例えば、ある保育者が、少し配慮を要する子どものエピソードを発表し、皆で解決方法を話し合うとしましょう。このケースでは、子どもについての情報が共有されるとともに、いろいろなアイディアが提示されることにより子どもの見方が広がる効果を期待できます。エピソードの内容は実際に起こったことですから、自身の保育観などを発表する研修よりもハードルが低く、皆が発言しやすいのも利点と言えます。

Q2 研修を始めるにあたり、職員同士が心がけるべきことはなんでしょうか。

A2 互いに批判しない、自分の見方に固執しない。この2つが大切です。

園内での話し合いに慣れていない段階では、互いを批判しないことをルールにしてください。経験の浅い保育者の意見には指摘したくなる点が多いかもしれませんが、まずは「自分が見たことや感じたことを自由に話してもよい」という風土をつくるのが先決です。園長や主任など、研修をファシリテート（進行・促進）するかたがたは、特に留意してください。

どの保育者も前向きな姿勢で取り組み、子どもたちもいきいきとしていると感じられる園では、必ずと言っていいほど、保育者同士の本音の「語り合い」を大切にしています。保育者としての質を高めるには、自分の見方だけに固執せず、ほかの保育者の語りに耳を傾けて新しい見方をどんどん取り入れていく必要があるのです。そのような風土が根づいて、信頼関係が十分に構築されたら、少し突っ込んだ意見を述べ合っても大丈夫でしょう。

Q3 研修のための時間が十分にとれません。短時間で実施できる方法はありますか。

A3 1日10分からでも始めてみましょう。

研修を実施する時間がないという園は多く、とりわけ保育所では大きな悩みの種になっています。それでも、時間をじょうずに使って実施している園も少なくありません。

ある園では、情報共有の不足を解消するために、保育者が自発的に毎日の10分間ミーティングを始めました。タイムリミットを明確にすることで、話し合いの焦点が絞れて密度の濃い時間になっているようです。別の園では、保育者が午睡の時間に集まり、子どもたちの姿や課題について語り合っています。その時間帯は、非常勤のかたを特別に配置しているそうです。また、園内研修等の時間短縮のため、事例提供者は研修の1週間前に事例を文書にして配り、参加する先生はそれを読んで自分の意見をまとめてから話し合いに臨むという方法をとっている園もあります。

Q4 研修は、基本的に若手が対象と考えてよいでしょうか。ベテランは指導に回るべきですか。

A4 ベテランにも当然自分を振り返り、省察することは必要です。自分の中に新たな課題が見つかるでしょう。

保育者としての専門性を高めるには、絶えず自らを振り返る必要があります。それが、現場を通して常に成長を続ける「反省的実践家」としての態度だと思います。

確かに、子どもの見取りや保育技術は、経験を積むほど熟達するでしょう。しかし、それゆえに自己を絶対化してしまいがちなのが、ベテランの最大の課題です。「こうあるべきだ」といった思い込みが強すぎると、子どもと一緒に発見し、驚き、喜ぶことのできるフレッシュな気持ちも薄れていくかもしれません。そのような状態では、質の高い保育の提供は難しいと言わざるを得ません。

そこで、常に保育を振り返り、ほかの保育者と語り合う作業を通して、自分の中に発見した課題に取り組み続けていく必要があるでしょう。魅力的な経験者は、子どもの姿から、そして若い保育者、保護者や地域の人などからも、謙虚に学ぼうとします。

保育上の気づきを自由に述べ合うことで、若手やベテランがお互いに学び合うことができます。
（写真／新宿区立戸塚第二幼稚園 P.10）

ポイントを押さえて研修をより効果的に

関東学院大学人間環境学部准教授 大豆生田啓友

Q5 チェックリストを用いて振り返りを行っています。この方法で問題ないでしょうか。

A5 ふだんの保育の振り返りとチェックリストをうまく併用しましょう。

チェックリストは全体的な視野から自分の保育や子どもの姿を振り返るうえで有効です。特に、見落としていたことを発見するのに役立ちます。しかし、ただリストでチェックをしただけでは、自己評価をしたつもりになるだけで、十分な意味をもちえません。その先が重要なのです。例えば、「子どもが主体的に遊べるよう環境構成を行った」というチェック項目があったとします。それに「できていた」と答えた場合、自分は具体的にどのような環境構成の工夫を行ったのか、それはどのような課題意識があったからで、そこからどのような具体的な子どもの姿が見えてきたかをエピソードであらわしてみることが大切です。また、「できていない」と答えた場合は今後どのように環境構成を工夫していくかを具体的に書き出してみましょう。そうすることで、自己評価が保育の見直しに生かされるのです。また、チェックリストには「できたか」「できないか」だけで物事を判断してしまう危険性もあります。特に個々の子どもの姿を評価するときなど、子どもの姿をそうした結果のみで見る保育になってしまうことはとても問題です。評価はプロセスが大事です。個々の子どもの思いやその子なりの変化のプロセスを見ていくようにしなければいけません。だから、特に個々の子どもの姿を評価する場合は、エピソードで記述することが大切で、日常的な保育の振り返りの記録が保育のもっとも重要な評価になるのです。

Q6 保護者との確かな協力関係を築いていくために、研修を活用する方法はありますか。

A6 保育のねらい、思いを明確に伝えることで、取り組みへの理解が得られます。

毎日、子どもの姿を何枚か写真に撮って、そこにちょっとしたエピソードやそこで経験したことを1枚にまとめて保育室の前にはりだしている園があります。午睡の時間を利用し、20分ほどで作成しています。

この写真を保育記録として保存して研修に活用するほか、保護者に向けて掲示しています。ある保育者は、子どもがいろんなにおいを発見してそこから活動がさまざま発展していく事例を長期に記録し、保護者にも発信してきました。すると、写真を通じて経過を見ていた保護者から、活動のアイディアがたくさん寄せられ、保護者を巻き込んだすばらしい保育になりました。

エピソード記述を活用した保護者への説明にも説得力があります。保護者は入園後、すぐにわが子に友だちができると考えますが、必ずしも、そうならないのはみなさんがご存じの通りです。環境に適応しにくいタイプの3歳児の保護者に対し、ある保育者は「徐々に友だちを意識しつつあるけれど、まだひとりで砂場で遊んでいる段階なので、もう少しこのまま見守りたい。チャンスがあれば、ほかの子とつなぐ指導もしたい」と、エピソードを交え成長のストーリーを説明したところ、非常に感激されたという話を聞きました。砂場で遊ぶという行為にも深い意味があり、保育者がプロとして見守っていることを実感をもって理解してくれたのでしょう。

保育のねらいは、保護者にはなかなか伝わりにくいものです。「ただ遊んでいるだけ」と見られてしまうことも多いでしょう。こちらが説明しない限り、保護者は「できばえ」を求めます。例えば、子どもたちがアイディアを出し合って劇をつくる場合、活動のプロセス自体が意味をもちますから、衣装やストーリーに多少の不備があってもかまわないと、保育者は考えるでしょう。しかし、そのねらいをきちんと伝えなければ、保護者は立派な劇でないことに不満を抱いてしまいます。

保護者の思いを受け止めたうえで、「今はこういう時期だから、こうしている」と、子どものエピソードにもとづいた説明をすれば、きっと保護者は理解を示します。決して容易なことではありませんが、研修を通して保護者対応に関する意識を共有することが、保護者との協力関係を築く第一歩となるでしょう。

全員で教育課程を見直し、保育で大切にすべきことを共有化していきます。
（写真／静岡豊田幼稚園　P.14）

現場のみなさんへ

◎保育の仕事は、社会からまだ十分に評価されていないと感じます。遊びと教育のつながりがわかりづらいことが、そのひとつの要因でしょう。しかし、外からは理解されにくいものの、みなさんが非常に重要な仕事をしていることに変わりはありません。園内研修は時間や労力を要するため大変ですが、自分を高めるとともに、幼児教育について保護者などに発信する材料をつくる場にもなります。今後はますます、園の情報を公表する機会が増えていくでしょう。その流れをチャンスととらえ、研修をじょうずに活用しながら、幼児教育への理解を深められるように社会に対して働きかけていきましょう。

次からのページでは、実際に行われている園内研修を紹介しています。

事例1 ビデオカンファレンス 東京都 新宿区立戸塚第二幼稚園 ▸▸▸ P.10

事例2 複数園による合同研究保育 岡山県赤磐市 あすなろ保育園 ▸▸▸ P.12

事例3 全員参加による教育課程編成 静岡県静岡市 静岡豊田幼稚園 ▸▸▸ P.14

事例4 ロールプレイ 東京都品川区 二葉すこやか園 ▸▸▸ P.16